

◆ 同志社女子大学 学芸学部情報メディア学科 准教授

和氣 早苗 (わけ さなえ)

○ 略歴：

1992年大阪大学基礎工学部制御工学科卒業。同年日本電気(株)入社、関西研究所にてヒューマンインタフェース、特に音響インタフェースの研究に従事。2003年大阪大学大学院基礎工学研究科システム人間系専攻システム科学分野博士後期課程了。博士(工学)。2002年より同志社女子大学学芸学部情報メディア学科助(准)教授、現在に至る。ヒューマンインタフェースにおける聴覚メディアの利用に関する研究、および福祉インタフェースに関する研究に従事。情報処理学会、電子情報通信学会、ヒューマンインタフェース学会、日本音響学会、日本サウンドスケープ協会、各会員。

- 講演題目： 暮らしの中の「音」のデザイン  
ーわかりやすく心地よいサイン音ー

○ 講演概要：

私たちの暮らしはたくさんの「サイン音」に溢れています。サイン音とは何かを人に知らせるために使われるいわゆる「お知らせ音」です。エアコンをつけると「ピー」、洗濯が終わると「ピーピーピー」、電子レンジは「ピロリロピロリン♪(メロディ)」、お風呂がたまと「お風呂がわきました!」。外へ出ても、例えば駅などでは本当にたくさんのサイン音が使われています。皆さんはこれらのサイン音をどう聞いていますか?これらの音はわかりやすくまた心地よくデザインされているのでしょうか?講演では、暮らしの中の様々な「サイン音」に焦点を当て、よりよい音のデザインについて考えてみたいと思います。